

適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

1. 知床エコツーリズム戦略の運用状況

過去に提案のあった3件について、取り組み等を進めた。また、新たに④⑤⑥の提案が承認された。

①知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン（提案者：斜里町観光協会）

平成25年度より積極的な啓発活動を進めてきた。平成26年度にはヒグマへの餌付け行為が北海道生物多様性保全条例により禁止された。平成27年度をもって3年間の取組が終了することから、次年度からは実行委員会を休会とし、各主体が事業を継続しつつ必要な場合には再開する予定。

②厳冬期の知床五湖エコツアー事業（提案者：斜里町観光協会）

冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで冬期の知床五湖をまわるエコツアー。知床五湖冬期適正利用協議会が実施し、初年度の平成26年度は目標の700人を越える747人が参加。平成27年度は1200人を目標に実施。

③赤岩地区昆布ツアー（提案者：羅臼町観光協会）

半島先端部での文化資源を活用した教育ツアー。コンブ漁の歴史と文化について解説を行う。平成26年度から3年間、非営利のモニターツアーとして条件付きで、検討会議の管理下で試行的に実施しており、平成27年度は試行2年目。

④外国人旅行者向け情報発信の強化（提案者：知床財団）

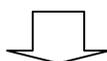
ルールを含めた知床の楽しみ方について、外国人に向けた情報発信の強化を目的として、平成27年度第1回会議で部会の設置が承認された。検討期間は例外的に3年間とされ、知床斜里町観光協会・知床羅臼町観光協会と連携することとされた。平成27年10月には第1回部会を開催し、地域関係団体と課題抽出を行った。

⑤先端部地区利用の心得の点検（提案者：環境省釧路自然環境事務所）

策定より時間が経過している先端部地区利用の心得について、利用状況等の変化を踏まえ、知床エコツーリズム戦略に定める3つの価値と基本原則に沿って、総合的な点検作業を行うもの。部会を10月と2月に開催し、課題整理を行った上で、そのうち利用の心得を修正することで対応すべき課題を確認した。

⑥知床条例等の検討（提案者：北海道）

道条例「知床世界自然遺産の保全及び適正な利用に関する条例（仮称）」に盛り込む内容や「世界自然遺産・知床の日」を定めることを検討する目的で、平成27年度第1回検討会議で部会の設置が承認された。平成27年度中に条例等を制定したいという北海道の要望を踏まえ、10月9日から11月18日にかけて計5回の部会を開催した上で、12月3日、臨時的に平成27年度第2回検討会議を開催し、部会の検討結果を一部修正して、道条例に盛り込む内容等を承認した。



2. 個別地域における取り組み状況

○知床五湖における利用調整地区制度の運用

昨年度限定的に運用したヒグマ活動期における地上遊歩道の2ルート併用を本格的に開始した。また駐車場の拡張工事を実施し駐車台数が約30台増加した。

○カムイワッカ地区におけるマイカー規制

平成27年度は8月1日～25日及び9月19日～23日の計30日間でマイカー規制を実施。バス巡回場工事に伴い、マイカー規制期間中のバス降車場から500mの徒歩利用となった。平成28年度のマイカー規制期間は3月3日開催のカムイワッカ部会にて決定される予定。

○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働

知床ウトロ海域環境保全協議会として、海鳥モニタリングや知床海鳥WEEKと銘打った各種イベントを実施。海域観光の充実や収益の環境保全への還元、野生動物と人との適正な関係の周知等を目的として知床ウトロ海のハンドブックを販売。平成28年度は改装する自然センターにてウトロの海鳥と協議会の活動をテーマとした企画展を実施予定。

3. その他の重要な報告事項

(1) 新たな資源利用の報告について合意

新たな支援利用方法の導入については、提案の必要性や規模、影響の大きさにかかわらず、可能な限り報告し、検討会議で共有する。

例) スカイバス、ヘリコプタークルージング、五湖の早朝利用

(2) 部会も含めた一般公開の徹底

エコツアー会議本体および部会も含めて、第三者に全面的に公開することを確認し、戦略事務取扱要領の改正を承認した。

4. 平成28年度の主な予定

提案の提出状況等に応じ、適正利用・エコツアーリズム検討会議を年間1～2回程度、開催予定。